

「ZAIDAN Report」第26号では、「東北大学インクストーンズ」様の活動をご紹介します。

宮城県石巻市を拠点に、「石巻に寄り添う」という理念を掲げ、「復興公営住宅での住民交流サロンの運営」「地域イベントの支援」「震災の記憶を学ぶスタディツアーの企画」などの活動を展開している、学生サークル「東北大学インクストーンズ」様の、当財団の2025年度助成を活用した活動をご紹介します。

「東北大学インクストーンズ」様についてご紹介

設立経緯と沿革

- 2013年に学内の東日本大震災学生ボランティア支援室内に宮城部門として誕生し、石巻市雄勝町の被災者を対象にボランティア活動を開始しました。
- 2015年に「インクストーンズ」の愛称が決定しました。



*名前(「インクストーンズ」)の由来

団体の原点である石巻市雄勝町波板地区が、伝統的な「雄勝硯(おがつすずり)」の職人が多く住む地域であったことから、硯の英訳(ink stone)に因んで名付けられました。

- 雄勝町の仮設住宅等における「足湯カフェ」の企画や雄勝町波板地区の地域づくり支援、林業支援、スタディツアー(*)など出会った地域や人のニーズごとに活動を模索していました。 (*)東北大生向けに実施した、震災の記憶を風化させないための伝承活動や、現地の魅力を伝えるツアー
- しかし、2016～17年にかけて仮設住宅の廃止・縮小が進み、支援先のニーズや地域課題も大きく変化しました。こうした状況を受け、支援活動の在り方を見直し、再構築する必要が生じました。
- そこで2018年度より、残存する仮設住宅に加え、石巻市内各地で新たに設営された復興公営住宅をサロン活動の対象としました。サロン活動においては、住民の孤立を防ぎコミュニティ形成をサポートするため、「折り紙」「万華鏡作り」「芋煮会」などを企画・運営しています。
- また、サロン活動の対象拡大と並行して、地域の夏祭りでは名物「石巻焼きそば」の販売をサポートするなど、地域活動のお手伝いも積極的に行っています。

活動内容

- 当団体は、「石巻に寄り添う」という理念のもと、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市において、地域住民が安心して暮らせる持続可能な地域コミュニティの形成と住民の心の健康(メンタルヘルス)の向上を目的に活動しています。
- 震災から15年が経過した現在も、復興公営住宅では住民同士のつながりの希薄化や孤立、高齢化に伴う孤独感などの課題が残されており、継続的な交流の場づくりが求められています。
- そこで当団体は、石巻市内の吉野町復興公営住宅および門脇東復興公営住宅、そして2025年度から門脇西復興公営住宅を定期的に訪問し、住民が気軽に参加できるサロン活動を実施しています。
- 活動においては、住民同士や学生との交流を重視し、地域のニーズに応じて工作、レクリエーション、クッキングなどの企画を行っています。

会員の状況

- 2026年5月現在、当団体には計86名のメンバーが登録しています。
内訳は、1年生36名、2年生21名、3年生16名、4年生11名、
大学院生等2名となっています。

最近のトピックス

- これまでのサロン活動では、食べ物を作って一緒に食べる企画の際に参加者が多く集まる傾向がありました。しかし、2026年2月に実施した門脇東サロンでは、お茶会やゲームを中心とした企画であったにもかかわらず、多くの住民の方々に参加していただくことができました。
- このことから、食べ物を目的とした参加だけでなく、学生との交流そのものを楽しみに来てくださる方や、継続的に参加してくださる方が増えていることを実感しました。活動を通して少しずつ信頼関係やつながりが築かれていることを感じ、大変嬉しく思いました。

団体の特色

- 当団体の特色は、学生と地域住民が気軽に交流できる「あたたかい雰囲気」にあります。サロン活動では、住民の方々一人ひとりとのお話や関わりを大切にしており、初めて参加される方でも安心して過ごせる場づくりを心掛けています。
- また、復興公営住宅での定期的な活動に加え、町内会行事への参加や地域イベントへの協力など、地域に根ざした活動を継続して行っています。
その中で、地域住民の方々からイベントへお声がけいただく機会も増えており、継続的な関わりを通して信頼関係が築かれています。
- さらに、学生団体ならではの若さや行動力を活かせる点も大きな特徴です。住民の方々にとって、学生との交流は日々の楽しみや活力につながっており、世代を超えた交流の場としても意義のある活動となっています。

【メンバーの皆さん】



【「サロン活動」の様子(1)】 【写真左】お茶会 【写真右】餃子作り *自然と会話が広がり、住民の皆さんとの距離の縮まりを実感しました。



今回の助成申込に至った背景

- 当団体は前述のとおり、持続可能なコミュニティ形成と住民の心の健康の向上を目的として活動しています。
- 現在でも、石巻市では住民同士のつながりの希薄化や孤立といった課題が残されており、継続的な交流の場が求められています。このような背景を踏まえ、復興公営住宅の集会所を中心に、学生や地域住民同士が交流できる場を提供することで、地域コミュニティの形成に向けた活動を継続的に行ってきました。
- しかし、私たちが活動している場所以外にも同様の課題を抱える地域は多く、新たに門脇西復興公営住宅での活動も開始し、これまで以上に幅広い地域への支援に取り組んでいます。活動地域の拡大に伴い、企画運営費や材料費、交通費、備品費などの負担も増加しており、安定した活動継続のための財源確保が大きな課題となっています。
- さらに、震災から年月が経過する中で、復興関連の助成金や支援は徐々に縮小しており、学生主体の活動だけで継続的に運営していくことが難しくなっています。
- そのため、本助成金を活用することで、既存の活動を継続・発展させるとともに、新たな地域での活動にも取り組み、石巻市における持続可能なコミュニティ形成や孤立防止、心の健康の向上に一層貢献していきたいと考え、今回の申請に至りました。

助成事業の成果

- 本助成金を活用したことで、復興公営住宅におけるサロン活動を継続的かつ安定的に実施することができました。
- 活動では、学生と住民、また住民同士の双方向の交流を重視した企画を行ったことにより、住民の方々が安心して会話できる関係づくりを進めることができました。
- その結果、日常的な会話だけでなく、個人的な近況なども話せるような信頼関係の構築につながりました。
- また、工作やゲームに加え、クッキングやお茶会など多様な企画を実施できたことで、高齢者だけでなく、子どもやその保護者など、これまで参加が少なかった層にも活動への参加が広がりました。
- さらに、活動前には学生によるチラシ配布や周知活動を行うことで、多くの住民に活動を知っていただき、新規参加者の増加にもつながりました。
- 加えて、2025年12月に復興住宅の住民の方全員を対象にした大規模なニーズ調査を行いました。それにより、住民の方々が日頃の活動をどのように思っているのか、またどのような活動を望んでいるのかを知ることができ、多くの住民の方に参加していただくための魅力ある企画づくりや、住民の方の日常のお悩みの解決に役立てています。

「ニーズ調査」に寄せられた参加者の声

“大学生の皆さんとお話できるのが楽しい” “若い人達との触れ合いを通して私も笑顔になる” “とても和気あいあいよかった”
“皆さんいつも熱心にやってくれるのでありがたい” “一人一人がみんな優しいです。自分のおばあさんに接するように優しくしてくれてありがとう”
“毎回参加しています。学生さんが明るく対応してくれるので本当の孫のようで楽しいです” “とても楽しい！”

- 本助成金を活用して実施した2026年3月の門脇西サロンでは、昨年度から新たに活動を開始した地域であることから、住民のニーズを把握するため、さまざまな企画に挑戦しています。
- その中で、トランプなどのカードゲームを中心とした企画を実施したところ、多くの住民の方々に参加していただくことができ、楽しんでいる様子も多く見られるなど、大変好評でした。これにより、新たな活動内容の可能性を発見することができ、今後の企画運営につながる有意義な機会となりました。
- 同じく3月に実施した吉野サロンでは、パンケーキ作りとお茶会を行いました。活動前にチラシ配布を行ったことで、当日の雰囲気にも興味を持って参加してくださった住民の方もおり、多くの参加者につながりました。参加者それぞれが工夫しながらパンケーキを作る中で自然と会話が生まれ、住民同士や学生との交流が深まるなど、全体として非常に充実したサロン活動を実施することができました。
- 継続的な活動を通して、当団体の活動を楽しみにし、開催を喜んでくださる住民の方々が増えており、地域住民にとって安心して集まれる居場所の一つとなっていることを実感しています。
- また、住民同士のつながりが生まれることで、孤立防止や心の健康の向上だけでなく、地域コミュニティの活性化にもつながっていると感じています。
- 加えて、本活動を通して、コミュニティ形成には単発的なイベントではなく、継続的・定期的な関わりが重要であることを改めて学びました。参加しやすい雰囲気づくりや、住民のニーズを反映した企画を行うことの大切さも実感しており、今後も地域住民に寄り添った活動を継続していきたいと考えています。

【「サロン活動」の様子(2)】

- ① クリスマスに因み、フェルトを使って協力しながらサンタの入れ物を作りました。
- ② 門脇西サロンでは初めてのゲーム大会。トランプゲームで盛り上がり、終始和やかな雰囲気でした。
- ③ ゲーム大会終了後の集合写真です。住民の皆さんが作った「かどのわきカルタ」と一緒に撮りました。
- ④ パンケーキ作りとお茶会。料理上手な住民の皆さんに教えてもらいながら美味しいパンケーキを作りました。パンケーキを囲みながらたくさんお話をすることができました。



活動を続ける中で見えてきたもの

- 東日本大震災から15年目を迎えようとしている今、これからの復興の核心は、人々の心に寄り添い、人と人との繋がりを築く「ソフト面」にあると考えています。当団体は「石巻に寄り添う」を理念に掲げ、変わりゆく石巻の「これから」に向き合い、寄り添い続けていく決意です。

変わってきたもの

- これまでの活動の中で「変わってきたもの」は、住民のニーズと私たちとの関係性です。現地住民の声に耳を傾けると、従来の支援する側・される側という一方向の関係から、住民と学生が互いに影響を与え合う「双方向」の関係へと変化しつつあるように感じます。
- 実際に、2024年度から試行し2025年度に定着した、住民と学生の混合チームによるモルック大会などの「双方向型サロン」では、住民が主体的に会話や活動に関わる場面が増え、非常に生き生きとした姿が見られるようになりました。受動的な参加に留まらず、一部の参加者が他の住民へ声をかけるなど、交流の担い手としての意識も芽生えています。
- また、2025年度からは新たに門脇西復興住宅での活動も開始し、門脇町全体におけるコミュニティ活性化への波及効果といった、地域的な広がりも見え始めています。

新たに見えてきた課題

- 一方で、活動を続ける中で「新たに見えてきた課題」もあります。地域の高齢化に伴う孤立リスクに対しては、コミュニティ形成が短期間で完結しないため、長期にわたる継続的な寄り添いが必要です。
- しかし現状では、新規参加者の伸び悩みという壁に直面しており、今後は広報方法の工夫や、初参加者でも受け入れやすいプログラム設計など、さらに多様な住民を巻き込む工夫が求められています。
- さらに、学生という外部の視点がコミュニティに新たな刺激を与える一方で、メンバーが入れ替わる学生団体だからこそ、活動の継続性を確保するための組織的な引き継ぎや体制づくりが不可欠であるという課題も浮き彫りになりました。

今後の展望

- これらを踏まえた「今後の展望」として、今後は継続性・参加しやすさ・住民の主体性を重視し、「参加の拡大」「地域全体への展開」「住民主体性の向上」を軸とした発展的な活動を展開していきます。
- 具体的には、門脇西での活動を本格展開させて住民の方々との関係性を深めるとともに、将来的には石巻市内の他地域への活動展開も視野に入れています。
- また、日頃の会話やアンケートを通して各復興住宅の要望を的確に把握し、子どもから高齢者までが参加しやすい企画を通して世代間交流の一助となるとともに、自治会等との連携を深めて地域間交流を促進します。住民一人ひとりが相互に支え合う仕組みを作り、「自分は誰かの役に立っている」と充実感を得られる環境を整えることで、住民の皆さんの生きがいがづくりと孤立感の払拭に貢献していきたいと考えています。

【「サロン活動」の様子(3)】

- ①モルック大会。ルールを簡素化して楽しみました。待ち時間では住民の方々と会話も弾みました。
- ②クリスマスカード作り。ノウハウを交換しながら素敵なカードの完成です。
- ③作ったクリスマスカードを持って記念撮影です。
- ④ボッチャ大会。「住民対インクストーンズ」の対抗戦で大いに盛り上がりました。



今後の抱負など...

- 今年度の当団体の目標は『三方良し』とし、学生、住民、石巻、各々にとって良い活動となるように活動したいと考えています。
- 学生にとって、当団体は同級生や先輩・後輩とつながれる貴重な機会であるとともに、東日本大震災に関わる活動を継続し、日常の学生生活では得られない経験を積む場にもなっています。この意義を重々理解し、団体の和やかな雰囲気を持続しつつ、大学生活をより充実したものにするよう、石巻の住民の皆さんとの交流や、震災についての勉強会を拡充させていきたいです。
- 住民にとって、若い人と定期的に関われる経験もまた貴重であると考えており、実際、月に一度の交流の機会を心待ちにしてくださっている方も多いです。当団体の活動の初期から参加されている住民の方との繋がりをこれからも保ち続けられるよう、魅力的なサロン活動をメンバー全員で考え、企画し、実行していきたいです。
- これまでの当団体の活動は復興公営住宅の方との交流が中心でした。今年度からは活動をより石巻全体に広げられるように努力していきたいと考えています。
- 具体的には、地域の子どもが楽しめるイベントを企画し、語り部活動により積極的に参加することで、元々の石巻の住民の皆さんに寄り添おうとする伝統を保ちながら、新しい活動を行ってきたいです。